

授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本美術史入門 a	仲町 啓子	受講者が多いので、TAをつけて双方向授業を心がけたが、それでも充分ではないとの意見が若干数ではあるが出ているので、さらに改善を心がける。
西洋近代美術史特講 c	六人部 昭典	アンケート結果を見ると、「授業進行が早い」という不満が多い。改善を図ったつもりだが、内容の整理（割愛を含む）を行ない、確実に伝えることを重視したい。
日本近代美術史入門 a	児島 薫	授業はシラバスどおりに進めました。100人を超える教室で双方向は難しいのですが、みなさんが自ら図書館で画集を手取るなどして学ぶこと、美術館に見に行くこと（授業中に紹介していますね）もアクティブ・ラーニングです。内容が難しいと感じた人には、高校の教科書などで歴史の流れを復習しておくことをおすすめします。大教室でしたので、声が聞こえにくいとかスライドが見にくいと思う場合には、前の席に座ってください。それでも問題があれば、授業の後で声をかけてください。後期もがんばりましょう。
基礎演習	小倉 絵里子 金原 さやこ 桑 和沙 中村 友代	アンケートへの回答をありがとうございます。いただいたご意見、ご要望はしっかり受け止めて、今後の授業運営に反映していきたいと思えます。授業を振替ってみると、授業に真面目に取り組んでいた学生と残念ながらそうでなかった学生との間で、最終的な実力に差が生じていたように思えます。提出していただいた課題は後日コメントをつけて返却しますので、授業で配布したプリントとあわせてよく復習し、今後活かしてほしいと思えます。
日本近代美術史特講 c	児島 薫	授業の最初にお話しましたが、1年生の「入門」ではできなかった「考える」ことをテーマにしました。その分、難しいところもあったとは思いますが、試験結果をみると、みなさんよくがんばってくれたと思えます。作品を見るときに、なぜそのような表現になっているのか、じっくり考えてゆきましょう。いつも展覧会紹介をしています。ぜひどんどん展覧会に行ってみてください。それもみなさんによるアクティブ・ラーニングです。
卒論ゼミ a	椎原 伸博	前期の段階では、まだ卒論のテーマ自体を確定できていない人もいました。この夏期休業は卒論執筆に対して重要な期間です。既に就活も終わっているのであれば、なおさら夏期休業の時期に頑張る必要があります。9月18日～19日のゼミ合宿では、経過報告を行いますので、緊張感をもって準備をしてください。
卒論ゼミ a	仲町 啓子	呼びかけましたが、解答がなく残念です。後期は是非お願いします
卒論ゼミ a	宮崎 法子	回答ありがとうございます。それぞれ、就活や実習などがあり、十分個別指導の時間がとれなかったことと思いますが、卒論は自習によるところが多いので、皆さんの自習の方向を修正したりするための指導になります。そのためにもう少し明確に課題を課したりすべきだったかと思えます。夏休みの課題を出しましたので、努力を続けてください。
卒論ゼミ a	六人部 昭典	アンケート結果を見ると、授業は概ね順調だったと思う。前期の内容を踏まえ、後期の個別指導につなげたい。
日本美術史演習 a	仲町 啓子	比較的少人数の授業の効果が感じられる結果となっている。
卒論ゼミ a	児島 薫	質問やわからないことがあれば、定期的な面談以外にも、随時メールで聞いてください。メールのやりとりでは難しいことがあれば会う機会をつくります。
卒論ゼミ a	駒田 亜紀子	卒論ゼミは、狭い意味での大学での学びにとどまらず、一人ひとり異なる課題を設定し、それに向き合いながら、今後の社会人生活のさまざまな場面で武器となるスキルや能力を磨く場でもあります。大変かも知れませんが、皆さん一人ひとりがご自身の成長を実感する場となるよう、今後の指導も心がけてゆきます。
卒論ゼミ a	武笠 朗	今年度は人数が多いので、個人指導がやや少なめでした。個人指導の時間を十分に取れるように工夫したいと思っています。後期は卒論執筆が本格化します。がんばりましょう。
中国美術史特講 c	宮崎 法子	アンケート協力ありがとうございます。予修などの時間がかなり少ないことが分かりました。もう少し、自習時間を増やし、内容を身につけられるために、もっと小テストを行い、期末試験の形も変えたいと考えて居ますが、現状のやり方に賛成の人も3分の2いると分かりました。質問の仕方を変えて回答してもらえば良かったと思えます。今後知識の伝達と、自ら作品を見る力をつけることを、どうやって限られた時間で両立していけるか、試験方法も含めて検討していきます。

[2019（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
仏教美術史演習 a	武笠 朗	人数が多く1人ずつの研究発表は時間的に困難ですが、重要ですので続けるつもりです。その際、事前の個人指導、発表後のコメントにできるだけ時間をかけたと思います。皆さんは、発表をただ漫然と聴くのではなく、発表内容を十分に理解し、発表の仕方等を自身の発表に活かすべく、真剣に聴くことを求めます。
デザイン実習 d	下山 肇	デザイン実習の授業で最も高度なデザインについて学ぶ授業である。産学連携としての取り組みの上での「ワークショップ」の研究と開発だったということもあり大変だったと思うが、良い成果が生まれたと思う。授業内でも触れたように、感動を起こす「経験」をつくるということはデザインにとどまらず社会に出ても常に要求されることである。 「目指さないで作るということが出来たこと。」 「目的を持たせないで、その場で集まった人達と新しいモノを作るというのが自分にとって1番難題だったがプログラムを製作する過程でその場で生まれた成果物の驚きを皆と共有出来た時に、新しいモノが生まれという感覚に似てると感じた。」 「様々な人の価値をコミュニケーションを通じて知ることができた。」 「課題に対して企業の人が参加していただいたことで、学生だけではなく様々な年代、性別の人と関わってこのワークショップは行うという意識を持って活動できたのが良かった。」 「デザインに対する苦手意識があったが、今回の講義を通して大変興味が湧いた。楽しかった。一年早く出たい授業でした。」 「ワークショップを考えるのは大変であったがグループのメンバーが2年、3年、4年と幅広がったが、意見をどの学年の子達もしっかりと話してくれてとても良かった。」 など、多くの具体的な意見から、概ね趣旨が伝わったと判断できる。さらに「新しい価値付けの仕方を知り今後社会に出ても実行していきたいとおもった。」という意見のように、単なる一経験としてだけでなく将来につなげていってもらえたらと思う。 「下山先生の授業はフィードバックがしっかりしておりわかりやすいので、パワポ提出後のフィードバック聞けないのが残念である。」という意見に対し、時間の関係で最後の講評ができなかったことは次回改善したい。
西洋近代美術史入門 a	六人部 昭典	アンケート結果を見ると、概ね順調と思われる。これまで不満が多かった「授業進行が早すぎる」という点も、今年度はほぼ対応できたといえる。受講者が1年生前期であることを踏まえ、ノートに関する助言を入れながら、分かりやすい授業にしてゆきたい。
中国美術史演習 a	宮崎 法子	回答者が3名と少なかったことが残念です。回答してくださった方がとうございます。回答者の欠席数は少なかったようですが、半数以上の学生さんの欠席がかなり多く、残念でした。演習は出席して、少しずつ力をつけていけるように組み立てていますので、欠席が多いと十分な効果が得られないと思います。今後、このような状況のなか、どのように演習を組み立てていくか、どのくらい課題を出したり、指導するのが適切なのか、検討します。後期に向けて課題を出します。後期の授業の一環ですので、授業が始まる前に、提出できるようにしてください。マナバ掲示板を見てください。
中国美術史入門 a	宮崎 法子	アンケート回答ありがとうございました。授業に対するレスポンスの最大のもは、定期試験の結果だと思いますので、それについて、まず書きます。平均点7.5点と、全体的によいものでした。ただ、一部「おまけ」しましたが、やはり全く合格点に届かない人もいました。また、テストの点がよくても、何度もアナウンスした展覧会の見学感想を提出していない学生は、その成績は悪くなります。授業では、一方的に聞くだけでなく、質問して答えてもらう時間を作ったりしていますが、さらにそれを進めた方がいいのか、そうすると授業内容を減らさなくてはならないため、さらに検討していきます。また、授業方法や内容にはおおむね満足してくれていても、今後もっと学びたいという人がそれより減っている結果は残念で、知識を伝えるより、興味をもてるような授業にする方向で見直したいと思います。
日本美術史特講 c	仲町 啓子	大人数・大教室での講義科目での双方向授業の困難さを痛感する。改善の方向を模索したい。
日本近代美術史演習 a	児島 薫	回答者が少なく、もっとリマインドすべきでした。教室がそれほど大きくなかったのに、ついマイクを忘れて話したりすることがあったので、マイクを忘れないようにします。manabaで毎授業ごとに自分が学んだことは何かについて書いてもらっているのは、みんな自ら学ぶ姿勢でのぞんで欲しいからです。また、どんどん書く習慣をつけるのは卒論に向けてのトレーニングです。

[2019（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
美学特講 c	椎原 伸博	アンケートを見ると、全体の平均よりも低めとなっていました。最後に、学会出張があり、最終的に尻切れトンボみたいな授業になってしまったことも大きかったのかもしれませんが、とはいえ、ファーレ立川の学外研修などは、興味をもっていただいたようです。レポートの課題にだした、空き地（テランバーグ）を見つける作業は、日常生活の中から美学的考察を試みるものであると考えて下さい。哲学的美学だけでなく、広く日常生活の中にある感性的な営為に目をむけることが大事です。そこに美だけでなく、崇高なもの、醜いもの、おかしみのあるもの等々「美的なもの」に対する関心を絶えずもちつづけることが重要です。
西洋近代美術史演習 a	六人部 昭典	アンケート結果を見ると、授業は概ね順調だったと思う。「Q13」について「この分野についてさらに学びたい」という回答が多く、この意欲を後期の演習や次年度の卒論作成につなげたい。
西洋美術史入門 a	駒田 亜紀子	西洋美術史入門aは、皆さんには馴染みのない、普段目にする機会がほとんどない作品を中心に扱ったため、いろいろと難しい点多かったと思います。ご自分の中で学んだことがすぐにはつながらなくても、今後、さまざまな授業を受ける中で学ぶことが有機的に結びつくように、思い出しながら学修を続けてください。
西洋美術史演習 a	駒田 亜紀子	演習は、事前・事後学修や課題の準備にかける時間が多く必要とされるため、慣れるまで大変だったことと思います。この授業で学修する内容は近世以前の西洋美術史が中心ですが、他の分野の美術史研究にも応用が利く基礎的なスキルが身につくように配慮しています。ご自身の成果に自身を持って今後の学修に臨んで下さい。
仏教美術史入門 a	武笠 朗	よりわかりやすい説明を心がけたいと考えます。また授業の双方向性については、講義中心の授業形式なのでなかなかむずかしいのですが、少しでも高めるべく工夫をしたいと考えます。皆さんには復習時間を増やして、理解を深める努力を求めたいと思います。文章を書くことを嫌がらないでください。
仏教美術史特講 c	武笠 朗	仏教用語・歴史用語はむずかしいので、よりわかりやすい説明を心がけますが、皆さんも予習復習で理解する努力を希望します。また授業の双方向性については、例えば課題レポートへのコメントに十分な時間を割くなど、少しでも高めるべく工夫をしたいと考えます。皆さんには、配付資料をもとに自分のノートをしっかりと作ることを求めます。
デザイン実習 a	下山 肇	「実践的な知恵を教えてくださいましたので、とてもためになった。」 「1年ぶりに下山先生の授業を受けることが出来て良かったです。」 「身近にあるものを使って制作したり、早く制作を終わらせる知恵など教えてくれてとてもためになりました。」 「少人数だったので先生に質問もしやすく、すぐに答えてくれるのでとてもスムーズに学習することが出来ました。」 「内容もとても興味をもち、楽しく学習することが出来ました。」 などの意見が得られ、学生が修得すべき「美の探求」のうち、主に、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。という到達目標が概ね達成できただろう。 今後もさらに、授業に対する理解が深まるよう工夫を重ねていく。
美学演習 a	椎原 伸博	前期の授業ご苦労様でした。ICTの時代に逆行するような、手書きにこだわった授業でしたが、皆さん落後せずに良く発表までこぎつけました。その努力は、卒業論文の作成にも活かされることでしょう。アンケートの学修時間の平均をみると1.24時間となっていました。この時間はもっと延ばせるはずで、更に精進しましょう。 さて、今回のアンケートでは 「手書きでの資料作成は大変だったが、終わった時の達成感は大きかったし、得るものも大きかった。この演習をとるか最初は迷っていたのだが、とって良かったと思っている。後期も積極的に取り組んでいきたいと思っている。」といった発言もあり、その達成感に学問的な内実を伴っていくように頑張りましょう。この授業はアクティブラーニングの手法を取り入れているため、他者とのコミュニケーション能力も向上しているはずで、そのことを自信に感じ、さらなる学生生活を続けていきましょう。
デザイン入門 a	下山 肇	「色についての理解が深まった。」「色をちゃんと見極めようとするようになった」など意見があり、実際の素材を活用しての学習成果が表れている。「自分で状況から判断して動く力が少し身についた。」という意見から、課題だけにとらわれないデザインの本質的な考え方として、また教員として生徒指導を行う際にも身につけるべきことについて習得されている。今後も実際の状況を細かく見ながら判断し、授業を進めていく。

[2019（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
美学入門 a	椎原 伸博	<p>アンケートの集計をみたところ、理解率が44.8%と低く愕然としました。例年、理解率が低めの授業なので、本年度は積極的にアクティブラーニングを採用しました。それは、ペアワークとグループワークの成果をレスポンスで送信することや、コーネル式ノートの課題を元にグループワークを行うことなどです。その手応えを感じていたため、理解率がもう少し高くなるのではと期待したのですが、その成果は出ずに、残念な結果になりました。無論その原因として、私の授業のすすめかた（マイクの問題も含めて）に問題があることは確かですが、それは授業ノートの提示を授業後に行うということの是非にあると思います。</p> <p>授業ノートの提示なしに授業を行うことで、まず自らノートをとる習慣をつけてもらいたいから、このようなスタイルで運営しているのですが、当然それにはたいする不満の声もありました。いきなり今日の授業はどこから入るのか、理解出来ないままできなり文字データをスクリーンに見せられても、なかなか理解できないということでしょう。パワーポイントではなく、後に配布する授業ノートを提示する形の授業なので、文字が小さめになるということも原因かもしれません。とはいえ、ならば文字がしっかり読み取れる場所に、つまりは前方に座っていただき、授業をうけるようお勧めします。また、マナバで公開する資料についても、資料提示後一週間以内にダウンロードして、復習に努めていただきたいと思っていたのですが、なかなか思い通りにいっていませんでした。余りにも理解率が低いので、マナバのダウンロードの状況について分析してみました。マナバでは7回にわたり資料を提示しました。その情報アップの日から一週間以上でダウンロード、あるいはダウンロードしていない回数と、成績の相関関係をみたところ次のようになります。</p> <p>+A=1.17 A=2.10 B=3.06 C=4.34 D=5.00</p> <p>この数値が意味しているところは、授業後に直ぐにダウンロードして授業内容を確認している人の方が、相対的に成績も良くなっているということです。授業内容は哲学的で難解な部分も多くありますが、まず提示された資料を直ぐにダウンロードして、復習に勤めて下さい。また、マナバのリマインダー設定を行っていない人が少なからずいます。それでは、せっかくの復習や予習の機会を失うことになるでしょう。美学入門bでは、今回のアンケート結果を吟味して、授業運営に努めていきますので、履修者の方はわからないことがあれば、質問にくるなど自発的な学習に勤めて下さい。</p>
デザイン入門 a	下山 肇	<p>「色についての理解が深まった。」「色をちゃんと見極めようとするようになった」など意見があり、実際の素材を活用しての学習成果が表れている。「自分で状況から判断して動く力が少し身についた。」という意見から、課題だけにとらわれないデザインの本質的な考え方として、また教員として生徒指導を行う際にも身につけるべきことについて習得されている。今後も実際の状況を細かく見ながら判断し、授業を進めていく。</p>